

令和2年度 年度末 学校評価書

全評価入り
完成版

校訓・教育目標

明朗 剛健 立志

ふるさとに根ざし 明るく たくましく生きる生徒の育成

経営の重点事項

①学びと授業づくりへの挑戦 ②集団づくりへの挑戦 ③ふるさと活動づくりへの挑戦

具現化のための3プロジェクト

【学びプロジェクト】

テーマ：ふるさとで生き抜くために必要な学力を身に付ける

- ① 「比内中授業のイロハ」の共通実践
 - ▶生徒・教師共に授業の凡事徹底
 - ▶授業プランシートの活用によるPDCA
 - ▶みらとびツアーの実施による指導技術の向上
- ② 学びを実感させる授業の構想と展開
 - ▶教科観を大切にした授業構想とその展開
 - ▶学びを確かなものにするまとめの仕方
 - ▶次への意欲につなげる振り返りの工夫
- ③ 積極的に学び合う場の設定
 - ▶みらとびタイムの深化（全教科・諸活動で）

【心と体プロジェクト】

テーマ：ふるさととの関わりを支える心と体をつくる

- ① 支え合う人間関係づくりと所属感を高める学年・学級づくり
 - ▶自治的な学年集会の工夫と充実
 - ▶学級会活動の活性化と短学活の工夫
 - ▶道徳教育の充実による規範意識の向上
- ② いじめ・不登校の予防・根絶と三機能を生かした生徒指導の展開
 - ▶「心」プロジェクト、SCの活用・連携
- ③ 家庭連携によるライフスタイルの改善
 - ▶ノーメディアへの取組
 - ▶体力と健康の保持増進（体力テストや健康診断での課題の解決）

【生き方プロジェクト】

テーマ：ふるさとに生き、自らを変えていく力を付ける

- ① ふるさとキャリア教育と地域貢献につながる体験活動の充実
 - ▶比内のものや人と関わりを生かした「ふるさと活動」の充実
 - ▶郷土愛と地域に貢献できる力の醸成
- ② 主体的実践力を高める生徒会活動の充実
 - ▶委員会活動、生徒総会、生徒集会等
 - ▶内なる力を外に発信できる生徒会活動の企画・実践
- ③ 自己有用感を味わい、
一人一人の共感的協働力を高める特別活動の企画・推進
 - ▶運動会、比中祭、合唱祭等の学校行事の工夫・充実

さて、コロナ禍にあって 今年度の比内中は順調なのか？

[評価項目ごとの評価の実際]

—— 表中の矢印 ——

- =生徒・保護者→ 概ね数値が上がったと判断される項目
=教師→ 中間よりも年度末が5%以上数値が上がった項目
- =生徒・保護者→ 概ね数値が下がったと判断される項目
=教師→ 中間よりも年度末が5%以上数値が下がった項目



コロナ禍の比内中祭 [全校合唱：比内中讃歌]

ア 生徒 の 状況	学校関係者評価 自己評価Aと 評価区分の	きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
		良好		4	実現状況は良好で意識も高い／数値目標に対し80～99%達成
		おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
		やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%
		努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

I 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
意欲的に学習に取り組み基礎学力を身に付けながら学力を向上させようとしている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	通常の実践ができていない中で、前向きに取り組んでいる。「学習規律」や「深い学び」は、昨年度からの課題である。若い先生方が多くなってきているので、共通理解をした上で共通実践を進めながら解決して欲しい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	授業参観では、全てのクラスで課題が提示され、生徒が落ち着いて学習に取り組んでいた。生徒指導の機能をもった声掛けも行われていた。教員のヒアリングの際に、「ただ提示するのではなく、生徒が食いつく提示の仕方、必要感をもたせる提示の仕方が課題」と話していたが、全教員がこのような高い意識をもって日々の授業に取り組んでもらえると生徒の学習への取り組み方が変わり、基礎学力の定着につながると思われる。
自己評価 学校の概 改善と 策	【中間（→年度末）】 ・ 意欲的に授業に取り組み、友達や先生のアドバイスを参考にしながら家庭学習をがんばる姿が見られた。今後も、全教科で授業規律の徹底や「みらとびタイム」を軸にした授業改善に努め、諸調査やテストの数値向上につなげたい。			
	【年度末（→次年度）】 ・ 全体的に学ぶ意欲の向上や学習習慣の定着が見られたものの、基礎学力の定着については課題が残った。生徒の実態に合わせて朝学習や学習会を設定したり、共通実践事項を中心に授業改善の研修を進めたりするなどして学力の向上を図りたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
1 意欲的な学習への取組	(1) 基本的な学習習慣の定着	◇授業の凡事徹底＝「比中スタンダード」や「比内中授業のイロハ」の活用 ◇「みらとびタイム」、学習強調週間 ◇家庭学習の調査 ◇効率的な学習法の指導	3	3
	(2) 意欲的に学習に取り組む姿勢			
	(3) 家庭学習の時間確保と質的向上			
2 学力の定着・向上	(4) NRT、全国学テ、県学習状況調査の結果の改善	◇授業改善、回復指導、補充問題の活用 ◇分かるできる、楽しい授業づくり	3	3
	(5) 単元テスト、定期テスト、小テストの結果の改善			

◇授業に対する意欲																			
＜生徒＞問2					＜保護者＞問1				＜教師＞問2										
%	そう思う	だいたい	あまり	まったく	そう思う	だいたい	あまり	まったく	④	③	②	①	達成率						
今年中間	49.7	46.4	3.4	0.5	19.8	43.2	30.9	6.2	0	12	4	0	58%						
今年度末	54.5	39.8	5.7	0	23.4	41.1	30.6	4.8	1	13	1	1	63%						

◇基本的な学習習慣
＜生徒＞問 1

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	69.3	29.1	1.1	0.5
今年度末	70.5	27.3	2.3	0

＜教師＞問 1

④	③	②	①	達成率
0	14	2	0	63%
1	12	3	0	63%

◇家庭学習の習慣化
＜生徒＞問 4

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	53.6	36.3	7.3	2.8
今年度末	57.4	33.5	7.4	1.7

＜保護者＞問 2

そう思う	だいたい	あまり	まったく
34.6	45.7	17.9	1.9
37.9	43.6	16.1	2.4

＜教師＞問 3

④	③	②	①	達成率
0	9	7	0	52%
2	9	5	0	60%

◇学力の高まり、数値向上
＜生徒＞問 5

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	21.8	43.0	28.5	6.7
今年度末	23.3	39.2	30.1	7.4

＜保護者＞問 3

そう思う	だいたい	あまり	まったく
11.7	42.6	34.0	11.7
19.4	38.7	35.4	6.5

＜教師＞問 4

④	③	②	①	達成率
0	7	9	0	48%
0	4	12	0	42%



3年生：道徳の時間（授業参観）



3年生実力テスト

1年生：調理実習（いわしの蒲焼き）



2年生：調理実習（蒸しパン）



Ⅱ 自主的・自律的な生活

生徒の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
自他の関わりを深め互いに認め合い、生徒同士が切磋琢磨し合いながら、豊かな人間性を育み、自律的に学校生活を送っている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	コロナ禍で、4・5月の学級づくりの段階に時間をかけられなかったと思われるが、参観授業の短い時間の中でも、教師と生徒のやりとりの中により雰囲気を感じられる場面があった。どの学級も、真剣に学習に取り組み、生徒同士の教え合いの場面もあり、良好だと思われる。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	校内に掲示されている学校行事や特別活動の写真には、生徒の生き生きとしたすばらしい表情が多く見られた。生徒のヒヤリングの際に、比内中のよくなってほしいこととして、「まだ全校生徒が、学習に集中して取り組めていないこと」を挙げていた。普段から教職員間で生徒についての情報交換を密にして、チーム対応で、生徒のよいところを見つけて認めて、互いに認め合う学級づくりを組織的に進めてほしい。
自己評価 学価 校の概 改要 善と 策	【中間（→年度末）】			
	・ 全校縦割り活動や短学活での学級プログラム、道徳での話し合い活動を通して、互いに認め合う姿が多く見られた。 ・ 委員会や学級での係活動、行事などを通して、今後さらに自主性を高めていきたい。			
	【年度末（→次年度）】			
	・ 生徒が共感的・協働的な生き方を考えられるよう、議論する道徳を来年度も行っていきたい。 ・ コロナ禍でも、内容や活動形態を工夫して行事に取り組むことができた。また、学級の係活動や委員会活動を通して、リーダーシップを発揮し、前向きに取り組む姿が多く見られた。 ・ 活動に向かうまでの準備（時間の意識）がまだ足りない。生徒自身が意識できるよう今後も支援を行っていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			中間	年度
3 豊かな人間性の育成	(6) 道徳教育の充実	◇「特別の教科 道徳」の授業実践の積み重ね ◇心を大事にしたあいさつ、掃除、合唱などの活動の充実	3	3
4 居心地のよい学級生活	(7) 互いに認め合う学級づくり	◇短学活の充実、高め合う話し合い活動 S G E の活用、アセスの活用 ◇係活動、学級活動の充実、一人一役	3	3
	(8) 学級の一員としての自覚と責任の育成			
5 集団生活の向上（自主自律）	(9) 特別活動の充実	◇学年集会、全校集会、学校行事の企画・工夫 ◇主体的な計画と運営、活動内容の工夫	3	4
	(10) 生徒会・委員会活動の活性化			

◇気持ちや心の成長（やさしさや思いやりなど）

<生徒> 問 6

<保護者> 問 4

<教師> 問 5

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく	そう思う	だいたい	あまり	まったく	④	③	②	①	達成率
今年中間	70.9	24.0	3.9	1.1	27.2	64.8	7.4	0.6	0	9	7	0	52%
今年度末	70.5	26.7	2.8	0	33.9	57.3	8.9	0	0	12	4	0	58%

◇思いやりの心や人間性の向上（毎日のあいさつや掃除を心を込めて取り組んでいるか）
 <生徒>問7

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	65.9	31.3	2.8	0
今年度末	63.6	32.4	4.0	0

<教師>問6

④	③	②	①	達成率
0	9	7	0	52%
1	9	6	0	56%

◇集団生活の向上（よりよい学校を目指して、集団の一員としての自覚をもって）

<生徒>問8

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	56.4	37.4	6.1	0
今年度末	63.1	27.3	8.5	1.1

<保護者>問5

そう思う	だいたい	あまり	まったく
21.6	63.6	14.7	0.6
28.2	62.1	8.1	1.6

<教師>問7

④	③	②	①	達成率
1	15	0	0	69%
3	12	1	0	71%

<生徒>問9（クラスづくりへの努力や協力）

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	63.1	35.2	1.1	0.6
今年度末	56.8	38.1	4.5	0.6

◇一人一人のよさの伸長（学級の居心地のよさ）

<生徒>問10

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	57.5	32.4	7.8	2.2
今年度末	50.6	37.5	9.7	2.3

<保護者>問6

そう思う	だいたい	あまり	まったく
24.7	56.8	13.0	5.6
23.5	53.2	18.5	4.8

<教師>問8

④	③	②	①	達成率
7	7	4	0	72%
4	11	1	0	73%



◀ 2年生
保育実習



▲ 子どもサミット：花贈呈式



◀ 後期生徒会立会演説会

Ⅲ 健全な生活習慣と健やかな体

生徒の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
よき生活習慣のもと、規律ある生活を送ろうとしている。また、自らの健康に関心を持ち、健康の保持増進に努めている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	ヒヤリングでは、生徒や保護者からは、あいさつがよく行われているという声があった。いじめ等も見られないとのことだった。コロナ禍でメディアコントロールがうまくできていない生徒もいるようなので、そうした生徒への指導をお願いしたい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	不登校への対応がよくなされている。生徒のヒヤリングの際に、比中生の課題として、「チャイム学習ができないこと」や「全員挨拶が自分から進んでできないこと」が挙げられていた。学校としても、自己評価が中間評価から下がった唯一の項目であるので、その理由を考え、生徒のよいところを認めながら対応していったほしい。
自己評価 学校の概要 改善と策	【中間（→年度末）】			
	・ 元気なあいさつができる生徒が多いが、自分から進んであいさつができる生徒を生徒会活動などを生かして育てたい。 ・ 教育相談やスクールカウンセラーを活用し、教師・保護者の適切な関わり方が見えてきている。メディアの使用を含めてコロナ禍で乱れた生活習慣を学校と家庭が協力して改善していく必要がある。			
	【年度末（→次年度）】			
	・ あいさつ運動の工夫などによってあいさつへの意識が高まってきた。一方で、時間を守る意識がまだ低い。学級・学年がチームとして時間を守るよう、声かけを続ける。併せて教師の手を離せるところは離し、自主性を高めていく必要がある。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			中間	年度
6 基本的な生活習慣の形成	(11) 明るく元気なあいさつ、言葉遣い (12) 規律ある落ち着いた生活の確立	◇あいさつ運動の実施 ◇言語環境の整備 ◇生徒との日常的な触れ合いとその場指導の継続	3	2
7 健全で共感的な心の育成	(13) いじめ・不登校の未然防止、情報モラル教育 (14) 共感的な教育相談活動の実施	◇「心」プロジェクト（いじめ不登校対策委員会）の推進（情報の共有） ◇生徒理解、定期教育相談、三者面談、SCの活用等	3	3
8 健康の保持増進、食育の推進	(15) ライフスタイルの改善、保健指導の充実 (16) 継続的な体力づくりの実践	◇ノーメディアへの取組 ◇学校保健委員会の実施 ◇新体力テストに基づく指導 ◇健全な部活動指導	3	3

◇場に応じた言葉遣いや行動
＜生徒＞問 1 1

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	59.0	38.8	2.2	0
今年度末	60.2	35.8	2.3	1.7

＜保護者＞問 7

そう思う	だいたい	あまり	まったく
22.8	64.8	10.5	1.9
25.8	62.9	9.7	1.6

＜教師＞問 9

④	③	②	①	達成率
0	9	6	1	50%
1	10	5	0	58%

◇時間を守り規律ある落ち着いた生活
＜生徒＞問１２

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	58.7	35.2	5.0	1.1
今年度末	56.8	36.4	6.3	0.6

＜保護者＞問８

そう思う	だいたい	あまり	まったく
17.3	58.6	17.9	6.2
24.3	55.6	16.9	3.2

＜教師＞問１０

④	③	②	①	達成率
0	9	7	0	52%
0	6	10	0	46%

◇望ましい人間関係づくり
＜生徒＞問１３

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	62.4	32.6	4.5	0.5
今年度末	64.8	31.3	4.0	0

＜教師＞問１１

④	③	②	①	達成率
1	13	2	0	65%
1	13	2	0	65%

◇望ましいライフスタイル
＜生徒＞問１４

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	47.2	39.3	8.4	5.1
今年度末	43.8	36.4	17.6	2.3

＜保護者＞問９

そう思う	だいたい	あまり	まったく
12.3	46.3	30.9	10.5
12.9	46.8	30.6	9.7

＜教師＞問１２

④	③	②	①	達成率
1	7	8	0	52%
0	13	3	0	60%

◇健康・体力の向上
＜生徒＞問１５

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	68.7	25.7	4.5	1.1
今年度末	65.9	24.4	8.0	1.7



＜教師＞問１３

④	③	②	①	達成率
3	12	1	0	71%
3	11	2	0	69%

大北秋季総体（卓球）



大北秋季総体（ソフトテニス）



市民駅伝大会

Ⅳ 生き方と志（ふるさとキャリア教育）

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
ふるさと比内への愛着心 をもち、生き方や夢・志に ついて考え、自己の伸長に 努めている。	中間	やや 不十分	おおむね 良好	コロナ禍で前期にできなかったことを踏まえて、今後、この状況下でも可能なことを考え計画していた。ねらいも焦点化されていた。ヒヤリングやアンケート結果からは、今までの積み重ねの成果が感じられた。
	年度	おおむね 良好	良好	新型コロナ禍で、例年実施してきた校外での活動がほとんどできなかった中で、可能な活動を考えてよく実施していた。生徒達も「新たな体験や話し合いができた」と、学習内容を前向きに捉えていた。教員達も、「こうした体験を通して、不要だったところや今まで見えていないところが見えてきて、今後に生かしたい」と語っていた。こうした姿勢を大事にしてほしい。
自己 評価 校の 概 改 要 善 と 策	【中間（→年度末）】			
	・ 各学年の進路学習、高校説明会など進路選択のために必要な手立てを講じることができた。 ・ コロナ禍の影響で、校外での体験的活動に制限があり実施できない状況である。実施計画を全面的に見直し、現状にあわせた活動の企画・展開を図らなければならない。 ・ 比内地区小中連携として、アルミ缶回収を行うことができたことは何よりであった。			
	【年度末（→次年度）】			
	・ 地域・保護者の協力を得ながら、各学年の段階に応じた進路学習の充実を図ることができた。 ・ 達人セミナーや郷土料理学習、農業体験、ふるさと交流の実施など、現状に合わせた形で活動を充実させることができた。総合的な学習の時間の充実と計画的な実施のために、全体計画の見直しを進めたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
9 自己の生き方の探求	(17) 望ましい勤労観・職業観の育成	◇進路学習や職業人による講座などの実施・充実 ◇進路計画の実践 ◇進路指導（職業適性）	3	4
	(18) 人間関係形成、自己理解・自己管理能力の育成			
10 郷土愛と地域に貢献する力の醸成	(19) 主体的・創造的に生き抜く力の育成	◇体験活動の充実（職場体験、ボランティア活動 他） ◇総合的な学習の時間の充実 ◇ふるさと活動の精選・充実	／ (3)	3
	(20) ふるさとのよさの発見・愛着心の育成			

◇望ましい職業観や生き方（キャリア教育） ＜生徒＞問16

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	57.5	33.0	7.3	2.2
今年度末	67.0	27.8	3.4	1.7



＜教師＞問14

④	③	②	①	達成率
1	13	2	0	65%
4	9	3	0	69%

1年生：農業体験

◇職場体験やボランティア活動での成長
＜生徒＞問 1 7

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	42.5	35.8	16.2	5.5
今年度末	44.3	36.4	15.3	4.0

＜保護者＞問 1 0

そう思う	だいたい	あまり	まったく
21.6	66.7	11.1	0.6
25.0	64.5	9.7	0.8

＜教師＞問 1 5

④	③	②	①	達成率
1	12	3	0	63%
1	12	3	0	63%

＜教師＞問 1 7

④	③	②	①	達成率
0	11	5	0	56%
4	11	1	0	73%

◇総合的な学習の時間の取組によるふるさと教育
＜生徒＞問 1 8

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	57.5	33.5	7.8	1.1
今年度末	58.0	36.4	5.0	0.6

＜保護者＞問 1 1

そう思う	だいたい	あまり	まったく
27.2	61.7	10.5	0.6
24.2	65.3	10.5	0

＜教師＞問 1 6

④	③	②	①	達成率
0	11	5	0	56%
2	11	3	0	65%

◇ふるさと比内が好き
＜生徒＞問 2 1

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	71.8	22.6	5.1	0.5
今年度末	67.7	26.7	4.5	1.1

◇比内中学生の取組が「地域の活力」につながっているか
＜保護者＞問 1 6

%	そう思う	だいたい	あまり	まったく
今年中間	27.2	64.2	8.6	0
今年度末	29.0	62.1	7.3	1.6



郷土料理学習
（きりたんぼ鍋）

※縦割り班活動で

イ 学校運営 の状況	自己評価Aと 学校関係者評価 の 評価区分	きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	目指す方向が共通理解され取組も組織的で意識が高く効果も顕著
		良好		4	目指す方向が共通理解され取組も組織的で成果が多く見られる
		おおむね良好		3	目指す方向が明確で一定の取組が行われており成果も見られる
		やや不十分		2	目指す方向がやや不明確で取組もばらつきがあり成果が安定しない
		努力を要する		1	目指す方向が不明確で取組体制や取組方に解決すべき課題が多い

V 組織運営と職員研修

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
各指導部が機能し、組織としてチーム力が発揮されている。また、子どもを育むための実態に即した研修により資質向上が図られている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	職員の若年化が課題となっている。同僚性を生かして縦・横の情報交換を密にして、授業力の向上など、組織としてのレベルアップを図ってほしい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	「みらびとツアー」（授業を見合う会）など、同僚から学ぶ機会を設定して授業改善に取り組んでいる。今後も、若い教員のパワーを引き出す方策を考え、実施して行ってほしい。
自己評価 学校の概要 改善と 策	【中間（→年度末）】	・ コロナの影響で例年とは異なる学校運営となっているが、各指導部内で知恵を出し合って進めることができている。 ・ 授業改善への取組の数値が昨年度より下がっている。コロナの影響で思うように進められない部分もあるが、改訂学習指導要領の趣旨を共通理解し、授業力の向上を図っていききたい。		
	【年度末（→次年度）】	・ コロナによって大きな変更等があったが、教務主任を中心に適切な学校運営ができており、それが数値にも表れている。 ・ 授業改善への取組の数値が中間よりも上昇したが、取組と状況の差が大きい。教科間や学年間の温度差がないように共通実践を進めていききたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
11 学校運営への主体的参画	(21) 学校教育目標、目指す生徒像の実現	◇経営方針・重点の明示 ◇創意ある教育課程編成 ◇職員一人一人の企画・挑戦・実践力向上とチーム力の向上	3	3
	(22) 共通実践事項の共通理解と実践			
12 学力向上等への組織的取組	(23) 思考力・表現力・判断力の向上	◇導入、学び合う場、振り返り、教師のコーディネート力の強化 ◇みらとびツアー（授業を見合う会）、授業研究会の充実	3	3
	(24) 研修の成果や課題の共有			

◇効果的な組織運営・協働態勢
＜教師＞問18

④	③	②	①	達成率
5	11	0	0	77%
5	11	0	0	77%

◇適切な教育課程編成
＜教師＞問19

④	③	②	①	達成率
9	6	1	0	83%
8	7	1	0	81%

◇授業改善への取組
＜教師＞問20

④	③	②	①	達成率
1	10	5	0	58%
2	11	3	0	65%



校内研究会（生徒指導）

VI 安全・安心と教育環境

学校の状況		自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
危機管理計画が綿密で、校内外ともに安心して教育活動を展開できる環境が整備されている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	保護者のヒアリングでは、朝の交通指導など、安心安全に向けた指導はよく行われているとのことだった。最近では、クマなどの危険も増しているため、さらなる安全指導をお願いしたい。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	新型コロナへの対応がとてよくなされていた。生徒のすぐれた作品やよい表情の写真、興味や視野を広げる掲示など、校内の掲示環境が、とてもよい生活環境をつくっている。生徒の交通事故に関しては、これまでの生活体験の不足によるものも大きいと考えられる。生徒の危険予知能力を高めていってほしい。
自己評価 学校の概要 改善と策	【中間（→年度末）】			
	1 学期は運転技術の未熟さによる自転車の事故が多かった。通学路の危険箇所を点検し、その改善を市教委に報告できた。 - 校内外の環境整備については、安全点検日を定期的に設定し、不備な箇所については確認・報告・修繕を行っている。			
	【年度末（→次年度）】			
	- 自転車の安全な登下校について、朝の登校指導や情報提供を通して未然防止に努めてきた。また、AED救命救急講習会（1 年）、性教育講座（3 年）など、命に関する教育を計画的に実施できた。 - 定期的な安全点検により、不備な箇所の確認・報告・修繕はできている。コロナ対策として購入した空気清浄機を活用しながら、安全・安心な環境づくりを継続していきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			中間	年度
13 安全教育の充実	(25) 安全指導、交通事故・問題行動の未然防止	◇通学路点検・交通安全教室、速やかな情報共有 ◇様々な状況を想定した実践的な避難訓練等の実施	3	3
	(26) 危機回避意識の向上（自分の命は自分で守る）			
14 学習・生活環境の整備・充実	(27) 校舎内外の安全確保	◇学校安全日の安全点検実施 ◇日常的な校舎・校地管理・補修 ◇校内掲示環境の整備 ◇花（プランター）等の整備充実	3	3
	(28) 生徒の活動や成長が見え潤いある学校環境整備			

◇事故防止、安全指導

＜保護者＞問 1 2

そう思う	だいたい	あまり	まったく
22.2	68.5	7.4	1.9
23.4	66.9	8.9	0.8

＜教師＞問 2 1

④	③	②	①	達成率
3	12	1	0	71%
6	10	0	0	79%

1 年生：AED講習会



◇危機管理体制の充実

＜教師＞問 2 2

④	③	②	①	達成率
4	11	1	0	73%
6	9	1	0	77%

◇潤いある学校環境整備

＜教師＞問 2 3

④	③	②	①	達成率
5	11	0	0	77%
4	12	0	0	75%

VII 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組を分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	中間	おおむね良好	おおむね良好	コロナ禍で、連携して行う活動ができない中で、HPや通信などを通して、広報活動がよく行われている。行事やPTAの活動も、できることを探りながら前向きに実施されている。保護者のヒアリングからも、支持されていることが分かった。
	年度	良好	良好	保護者からは、「お便りには、生徒の意見なども掲載されており、学校や生徒の様子がよく伝えられている。」という話が合った。各行事やPTAの諸活動も、新型コロナ禍でも、工夫しながらよく行われている。今後も、地域の教育資源や人材を積極的に生かして行ってほしい。
自己評価 学校の概要 改善と策	【中間（→年度末）】			
	- 学校報は年度当初から定期的に発行することができた。ホームページはスタートが遅れたが、随時更新することができた。学校運営の考え方や進め方を共有できるような情報発信を多くしていきたい。 - コロナ禍で、地域と関わることがほとんどできなかった。これまでとは違う手立ての連携を模索していかなければならないと感じる。			
	【年度末（→次年度）】			
	- 学校報は月2回定期的に発行することができた。ホームページは随時更新し、学校の様子や運営について共有できるような情報発信をすることができた。 - コロナ禍ではあったが、地域コーディネーターの協力により、地域の教育資源を活用した体験活動を行うことができた。比内地区子どもサミットの地域貢献活動として行ったアルミ缶回収を継続していきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			中間	年度
15 保護者・地域との双方向の連携	(29) 保護者・地域の理解を得る広報活動	◇学校・学年・部活動だよりの内容充実、HP更新、学校開放 ◇各種PTA活動を通して保護者の積極的な協力態勢づくり	3	4
	(30) 行事やPTA活動の工夫			
16 地域素材・地域教育力の活用	(31) 地域行事への生徒の積極的な参加・貢献	◇地域行事・地域貢献活動への参加と協力 ◇各機関との連携、地域学校協働本部事業の活用	3	4
	(32) 地域の教育資源、人材の活用			

 比内中祭前の親子早朝奉仕作業（窓ふき）	◇学校の情報（生徒の様子等）の発信		◇保護者との連携や協力態勢、PTA活動	
	<保護者>問13		<教師>問24	
	そう思う	だいたい	あまり	まったく
	25.9	64.8	7.4	1.9
	29.0	64.6	4.0	2.4
	<保護者>問14		<教師>問25	
◇地域の行事に積極的に参加しているか（コロナ禍により調査せず）	そう思う	だいたい	あまり	まったく
	18.5	70.4	9.3	1.9
	24.2	66.1	8.9	0.8
	<保護者>問15		<教師>問26（地域との連携）	
	2	12	2	0
	3	13	0	0